

AKITA Biz Forest

あきたBizフォレスト TOPインタビュー

TOP INTERVIEW

株式会社秋田放送

代表取締役社長 **立田 聡氏**

1956年秋田市生まれ。秋田高校、早稲田大学法学部を卒業し、1981年に秋田放送に入社。テレビ制作部、報道部などを経て、総務局総務部次長、報道制作局報道部長を歴任。常務取締役を経て、2010年に代表取締役社長に就任し、現在に至る。自他ともに認める愛猫家。



文化と経済の共存から地域の発展を目指したい

工藤 本日はよろしくお願ひします。早速ですが、立田社長の経歴をお聞かせ下さい。

立田 昭和31年生まれ。秋田駅東口の旧秋田営林局官舎で育ちました。傍には秋田杉の貯木場があり、丸太がたくさん積まれ、運搬のためのトロッコも走っている環境でした。幼少期は暗くなるまで外で遊ぶ活発な子供でした。特に秋田杉の丸太の貯木場が大好きな遊び場で、木と木の間をジャンプして飛び回ったり、基地のようなものを作ってみたり、すごく楽しかったですね。本当はいけな遊び方かもしれませんが、幼少の頃ということで時効にして下さい。笑。小学校からは野球と器楽クラブに熱中し、中学ではバスケットボール部、高校では社会部の部長をしていました。

工藤 基地!男の子には憧れしかないですね!高校の社会部ではどんなことを?

立田 毎年どこかの市町村をリサーチして、機関誌にまとめるという活動がメインでしたが、年に1回OBOGと一緒に4泊5日の合宿をしたり、喫茶店でたむろしたり?周りからは社交部とも呼ばれていました。笑。

工藤 高校生にしては少し大人っぽいハイカラな学生時代を過ごされたのですね。でも何だかとても楽しそうで羨ましいです!笑。その後はどんな進路を?

立田 早稲田大学法学部に5年在籍しました。当初は経済や貿易や商学に興味がありましたが、ロッキード事件がきっかけで法に興味を持ち、法学部の道に進みました。1-2年の頃は真

面目に勉強しましたが、3年になると秋田に戻り公務員の道も考え始め、そこから何となく勉強以外にも目が向くようになり、特にフォークソング部でのバンド活動は熱心でした。また、レストランのウェイターや左官屋の現場など、アルバイトにも明け暮れていました。そこで出会う大人たちから色々なことを教わったり、ご飯を御馳走してもらったり、それはそれでとても楽しく過ごしていました。

工藤 卒業後は、公務員に?秋田放送に?

立田 当時は公務員を目指していましたが、たまたま親友が放送局を目指していたこともあり、放送局も視野に入れ始めました。それをみていた母親が知人に頼み込んで秋田放送の試験を受けさせてくれました。そして秋田放送に入社しました。

工藤 なるほど。入社後はどんなお仕事を?

立田 はじめの約7年はテレビ制作部にいました。当初はいわゆるディレクターの仕事をしていましたが、当時の先輩方がわりと放任主義で色々な仕事を任せられましたので、調整室でもカメラ割りをしたり台本を書いたりする仕事にも抜擢されました。その頃民謡番組の制作に携わり民謡とも出会いました。また野球、サッカー、ラグビーをメインにスポーツ分野も数多く担当させていただきました。その後の約11年は報道に携わり、司法記者クラブで裁判関係を担当し、県政記者クラブで秋田を代表する方々と一緒に仕事をさせていただき、普段会えないような方々とも出会える貴重な経験や体験

もさせていただきました。今思えば本当にこの時期は充実した毎日でした。

工藤 どのような経緯で経営に携わるように?

立田 その後制作担当に戻されたのですが、当時ステップアップしたかった自分にとってその異動はあまり本意ではなく、サラリーマン時代過去に唯一この時だけ、上層部に異議を申し出ました。結果的にはそれを受け入れ2年間の制作部を経て、総務部で経営の裏側等も勉強しながら、地上デジタル化準備や社内の意思統一委員長を任せられ、報道部長、取締役報道制作局長などを経て、2010年に54歳で社長に就任しました。

工藤 なるほど。ところで昨今はテレビ離れにより放送業界も難しい現状と拝察しますが、会社の課題や取り組み状況等はいかがですか?

立田 コロナで生活様式が変わり若者のテレビ離れは一層進みました。長らくラジオの赤字をテレビの黒字で補っていましたが、いよいよ難しくなっています。まずは自らも率先して全社の働き方や経費削減に取り組んでいます。こちらは「守り」ということですが、「攻め」としては、まずは秋田放送が持っているすべての経営資源を使い、様々な形で利益につなげたいと考えています。例えばABSあきたアプリなどのデジタルツールの活用、他企業や自治体との連携、放送以外でも挑戦できることは何でも挑戦していくつもりです。ただ長年培ってきたコンテンツ企業としての価値を大切に、秋田の魅力の再発見や発信で秋田を盛り上げるこ

あきたBIZフォレストTOPインタビューは、秋田の起業家と企業環境を応援することを宣言いただいた100名以上の経営者の皆様を中心に、起業家に役立つ話題と起業家へのメッセージを対談形式でまとめたものです。

とを忘れず、文化と経済の共存からの地域発展を目指したいと考えています。秋田にしかない魅力を、秋田県民が知らないことは意外によくあり、県外から来た方がそれに気づいてくれたりします。私は県民がもっと秋田に誇りを持つてる社会になってほしい。少子化が進む中、今秋田にいる子どもたちが10年後、20年後に夢や希望を持つてる秋田になるために今何をしなければならないかを真剣に考える必要があると思っています。新しいことを始めようとする起業家やそれを目指す人たちもいるので、メディアがその一助になることも大切だと思います。

工藤 それは起業家にはとてもありがたい支援ですね。ところで、お話しを通じて立田社長の秋田愛をとて強く感じます。その根底にあるものは何でしょう?

立田 報道という仕事を通じ、民謡、スポーツをはじめ、様々な世界で夢や熱意をもった人達に会いその頑張りを見てきました。自分も負けられないと思う気持ちが秋田愛に繋がっているのでしょうか?また、そういった人達や大事な人、仲間との繋がりを大切にしたいという想いも大きいかもしれません。

工藤 ちなみに秋田が持つポテンシャルをより活かすためには何が大切でしょうか?

立田 チャンスが来た時に一歩前に進める勇気と行動力だと思います。チャンスは目の前にたくさん転がっているんで、まずはアンテナを高くし、そのチャンスを掴めるように準備する。また周囲を巻き込み大きな行動に繋げる知恵も必要だと思います。

工藤 なるほど、その通りですね。秋田も起業に対する支援もどんどん増えてきています。立

田社長をはじめ起業家や若者を応援してくれる環境がより一層高まれば、もっと楽しくなりそうですね。きっと秋田は夢だらけですね。

とにかく音楽全般が好き!

民謡との関わりが印象に強いかもしれませんが、もっともたくさん聞く音楽はジャズだそうです!昔からお父様の影響でジャズを聴いて育ち、音楽に親しまれたとのこと。よくジャズ喫茶にも通っていたようで、今でもそこで続く親交関係もあるとか。多いときは800枚ほどのレコードをコレクションしていたそうですが、最近はYouTubeで昔の歌や思い出に浸りながら、様々なジャンルの曲も聴いています。と楽しそうに話してくれました。

本日は貴重なお時間とお話しを本当に有難う御財増した。

インタビュー

合同会社ゼグルス(共同事業体ジェイワン)アントレプレナーコンシェルジュ 工藤 実

ライター 藤田 ゆうみん

企 画 共同事業体ジェイワン(秋田市ビジネススタートアップ支援事業)

